

SNA推計におけるデフレーターを取扱いについて

I 平成17年度確報による基本単位デフレーターの変動

「基本単位デフレーター」は、SNA推計に際し各表章項目の実質化に用いる最小単位の品目別価格情報であり、約400品目レベルで、生産、輸入、輸出、家計消費、中間消費、固定資本形成の6分野について作成している。また、この基本単位デフレーターは、SNAの個々の品目に対応するCPI、CGPI等の各種物価指数を統合して作成している。

これまでは、SNAの品目に物価指数が複数品目対応している場合は、比較時ウェイトを用いてパーシェ式で統合してきた(但し、比較時ウェイトがとれない場合は、ラスパイレ式で統合)。

しかし、平成17年度確報では、本年の遡及推計作業で作成されたウェイトを新たに用い、フィッシャー連鎖式(但し、比較時ウェイトがとれない場合は、ラスパイレ連鎖式で統合)で作成することとした。

なお、SNAの実質化における(基本単位デフレーター以外の)デフレーター作成では、パーシェ連鎖式で作成している。